

令和元年6月7日

石巻市議会議長 木村 忠良 殿

会 派 名 ニュー石巻
代表者氏名 会長 阿部 欽一郎

調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- 1 調査者氏名 阿部 欽一郎、阿部 久一、遠藤 宏昭、奥山 浩幸、
高橋 憲悦、大森 秀一、楯石 光弘、佐藤 雄一、
安倍 太郎、森山 行輝、丹野 清、阿部 浩章
- 2 調査期間 令和元年5月14日から
令和元年5月17日まで 4日間
- 3 調査地
及び調査内容
 - (1) 香川県丸亀市
・まる育サポートについて
 - (2) 徳島県吉野川市
・花で彩る吉野川市の未来について
 - (3) 高知県室戸市
・廃校利用（むろと廃校水族館）について

4 目 的

(1) 香川県丸亀市

・まる育サポートについて

丸亀市は、丸亀市に住むすべての子どもが健やかに成長し、安心して地域で子育てができるような環境づくりの取組として、まる育サポート事業を推進している。当該事業は、妊娠期をはじめ子どもが0歳から18歳になるまでの子育て期を「ハッピーサポート丸亀」と「あだあじお」がしっかりと連携しながら支援していく総合相談窓口であり、妊娠届出時から就学まで、地区担当保健師が継続してサポートを行うとともに、臨床心理士や教員・保育士経験者などの子育て支援の専門相談員が、子育てのあらゆる問題や心配事の相談を受け付け、子どもの年齢や状況に合わせてきめ細かなサポートを行っている。

本市においては、子どもをめぐる問題は多様化・複雑化している状況にあり、また、各家庭においては、核家族の進行と震災後の地域コミュニティの崩壊が深刻な課題となっており、不安やストレスを抱えながら子育てをしている現状も見受けられる。

そのため、本市においては、家庭、学校、地域、民間団体等あらゆる方々が、子ども・子育て支援の重要性に関心・理解を深め、各々が協働し、役割を果たすよう推進していく必要があることから、全ての子どもが健やかに成長できる社会の実現を総合的に推進するため、石巻市子ども未来プラン（第1期）を策定していることから、丸亀市の取組について学び、本市の事業推進の参考とするため、視察を行った。

(2) 徳島県吉野川市

・花で彩る吉野川市の未来について

東日本大震災から8年2か月が経過し、復興庁が定める復興期間も残り2年を切り、復興期間終了後に本市が取り組む主要施策を現段階から検討しなければならない時期を迎えている。

吉野川市では、市長の肝いりにより若手職員が、財務省徳島財務事務所若手職員と協働でプロジェクトチームを組み、「地方創生☆政策アイデアコンテスト2018（内閣府地方創生推進室主催）」に「花で彩る吉野川市の未来」というアイデアを応募し、最優秀賞「地方創生担当大臣賞」及び協賛企業賞「三菱UFJリサーチ&コンサルティング賞」に選ばれた。

同コンテストは、地域経済分析システム（RESAS）を活用して、自らの地域を分析し、地域を元気にする政策アイデアを募集するものであり、応募総数604件の応募作品の中から、グランプリを受賞したものである。

同チームはRESAS等を活用し、地域課題の解決に向けては、若年女性が活躍できる就労の場の創設及び地域経済の牽引役となり得る食料品製造業生産性向上並びに若者の6次産業化を見据えた新規就農を促す仕組みが必要であることを明らかにした。そして新たな産業創出のため、歴史及び若年女性の視点から、エディブルフラワー（食用花）に着目し、廃校を活用し、民営のエディブルフラワー工場及び商品加工・販売所等を誘致、建設し、持続的か

つ新たな社会的・経済的価値の創造を目指し、女性や若者、障害のある人、高齢者等に活躍の場を提供するとともに、既存産業とのコラボ等による経済波及効果も狙うというアイデアとして具現化に取り組んでいる。

本市においては、産業の活性化を図りながら、人口減少を阻止・克服し、市民の安全・安心な暮らしを実現するために、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、重点的に地方創生事業に取り組んでいることから、吉野川市の取組について学び、本市の事業推進の参考とするため、当該事業の内容と成果、課題について調査を行うものである。

(3) 高知県室戸市

・廃校利用（むろと廃校水族館）について

室戸市では、廃校を利用した活性化を目的に、室戸市室戸岬町にあった旧室戸市立椎名小学校（平成13年閉校、平成17年廃校）を改修し、平成30年4月26日に「むろと廃校水族館」をオープンさせている。机や椅子、本棚などは当時のまま活かしており、展示されている50種類、1,000匹以上の海の生き物は、地元漁師の定置網にかかったり、職員自ら釣ったものが大半となっている。施設概要としては、屋外プールと校舎内に設置した水槽のほか、受付、ホール、研修室、授乳室、資料展示室、理科室、図書室、家庭科教室などがあり、小学生に戻った気分で観察できる施設となっている。

来館者寄せの目玉となる飼育動物がいないにもかかわらず、開館から3か月で累計入場者数が3万人を突破し、3か月半経過した8月には初年度目標であった4万人を突破するなど、高知県内でも非常に人気のある水族館となっている。その理由としては、廃校へのノスタルジーや他の水族館では看過されがちな種類の魚介類を見ることができる点などが挙げられており、10月末には10万人を突破するなど、観光行政、交流人口の拡大などに大きく貢献している。

本市においては、東日本大震災等を起因として学校の統廃合が進んでいる状況にあることから、室戸市の取組について学び、本市の事業推進の参考とするため、視察を行った。

5 調査概要

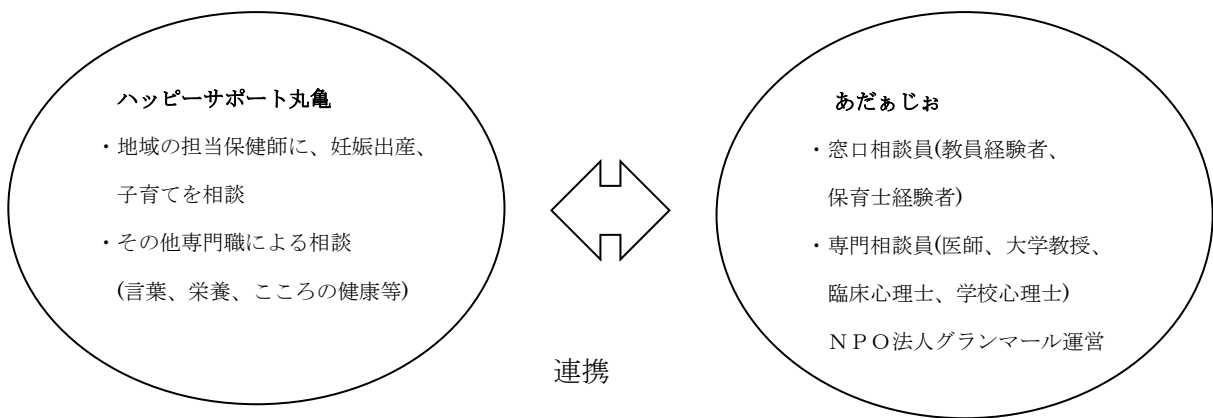
(1) 香川県丸亀市

・まる育サポートについて

丸亀市は、人口11万10人。面積111.79km²で、予算規模は約400億円。財政力指数は0.71と高い数値である。高齢化率は、22.9%で、まだまだ若い世代が多いことが分かる。特産品は、うちわ、石材、骨付き鳥、讃岐うどんなどである。

[事業概要]

- ・まる育サポート事業は、妊娠期をはじめ、子どもが0歳から18歳になるまでの子育て期「ハッピーサポート丸亀」と「あだあじお」が連携しながら支援していく事業である。



- ・発達障がい児支援協働事業は、丸亀市とNPO法人「地域は家族・コミュニケーション」と専門家・関係機関等が協力し、発達障がいなどの子どもの発達に不安がある保護者や保育士・教員を支援するために各種相談や研修会を実施している。

1. 発達障がいと思われる子どもの保護者のための場・・・「ほっぺ」
2. 発達障がいのある子どもの保護者の相談事業・・・「すきっぷ」
3. 子どもと親とのふれあいの場・・・「はぐみくらぶ」
4. セミナー、巡回カンセリング相談員との交流会などの開催
5. 保育士・教員の発達障がい児支援の勉強会・・・「ハートサポート」
6. 巡回カウンセリング(医師、大学教授、臨床心理士など10名が保育所、小学校、中学校を巡回しアドバイス)

- ・子育てナビ・アプリ「みてねっと」を導入

約63,000件のアクセスがあった。

- ・主な質疑

Q運営主体について

Aあだあじおについては元々、発達障がいの子どもの相談窓口があり、子育てに関する悩みを相談されることが多くなったため、携わっていた専門家によって、独自にNPOを立ち上げた。行政側が必要としていたため、委託事業となり、市役所内の建物に窓口を

構えた。人材確保については、それまでの保育士等と接点があり、定年退職したエキスパートを起用しているため、安心感がある。ハッピーサポートから繋がる継続的な支援と、18歳までの子どもの多岐にわたる相談に対応している。

Q今後の課題について

A事業が市民に浸透していないことが課題である。子育てのことを相談するならあだおじおとということを浸透させたい。また、他部署と連携するための協議会を立ち上げたばかりなので、機能するようにしていきたい。

(2) 徳島県吉野川市

・花で彩る吉野川市の未来について

吉野川市は、「四国四郎」で知られる吉野川中流域の拠点都市として、平成16年10月に4つの町と村が合併して誕生した。その以前は、明治22年町村が実施され、11の村になり、昭和28年には「町村合併特例法」などの施行により11の村から4つの町村になり、こうした多くの歴史をもとに「世代を超えて夢紡ぐまち」を理念に。旧4町村の持つ伝統、文化を引き継ぎ、美しいふるさとを守り育てています。

1 地方創生☆政策アイデアコンテスト2018

最優秀賞「地方創生担当大臣賞」を受賞

「花で彩る吉野川市の未来」の経緯について

- ・応募者 吉野川市役所&財務省徳島財務事務所若手プロジェクトチーム
- ・コンセプト 人口約4万人の自然豊かなまち
地区ごとのゆかりの花を産業等への活用
(全国初の梅酒特区に選ばれた美郷の梅や大正時代から歴史ある大菊人形展など)

・RESAS等により把握した課題

- ① 若年女性人口の減少と合計特殊出生率の低さ
 - ・課題解決のキードライバーは、雇用創出
- ② 食料品製造業の生産性と給与の低さ
 - ・地域経済の牽引役と成り得る食料品製造業を、6次産業化等により生産産業化することが重要
- ③ 若者の新規就農者の減少
 - ・稼げる農業への転換するスキームが必要

・エディブルフラワー（食用花）に着目

- ① パンジーなどの花を料理やスイーツに利用

② 注目度の向上に合わせ、市場拡大の可能性

- ・ ・ 認知・注目度向上中！市場拡大が想定される

・ キーとなるスタートアップ企業の存在

① LEDを活用した閉鎖型植物工場で栽培

② 柔軟な働き方が可能な植物工場の魅力

- ・ ・ 柔軟な働き方が可能で、子育て・介護中の人や障がいがある人の雇用先と成り得る

(例) OHGETS オーゲツ株式会社

・ EEC (エディブルフラワー・エコシステム・チャレンジ)

① 廃校にエディブルフラワー栽培工場を誘致

② 商品加工・販売所等の6次産業化を目指す

- ・ ・ 多様な主体が活躍できる雇用の場を創出。自走可能な施設を目指す。

・ EEC実現に向けたファイナンス

① 事業者選定には、地域活性化の観点を重視

② 事業性評価融資やクラウドファンディングを活用

・ フレームワークを活用したマーケティング戦略

① 戦略の実行により、吉野川ブランドの構築へ

② 地元企業とのコラボや情報発信が重要

- ・ ・ 4P分析

PRODUCT	製品
PRICE	価格
PLACE	流通
PROMOTION	プロモーション

・ 共創で、地域共通価格を創造

① EECが核となる共創で、価格創造や課題解決

② 各主体が連携するオープンイノベーションを構築

・ 共創☆吉野川市地域経済エコシステム

① 財務局がそのネットワークを活用し「つなぎ役」に

② 相互補完関係を構築し、多面的に連携・共創

- ・ ・ 吉野川市と四国財務局が連携協定締結

- ・ E E Cが目指す吉野川市の未来
- ・ E E Cで「世代を超えて夢紡ぐまち」へ

(3) 高知県室戸市

- ・ 廃校利用（むろと廃校水族館）について

高知県室戸市、むろと廃校水族館 3 階会議室にて、室戸ジオパーク推進協議会事務局次長・室戸市観光ジオパーク推進課課長補佐堺様、むろと廃校水族館館長若月様から「廃校利用（むろと廃校水族館）について」ご説明をいただいた。

室戸市は、高知県の東南部に位置する。面積は248.18km²、人口13,218人（平成31年3月31日現在）。太平洋に突き出した室戸岬があり、水産業とホエールウォッチングで知られ、近年では海洋深層水で知られる。夏から秋にかけては台風の通過が多く、台風銀座と呼ばれるところの一つである。基幹産業の水産業の衰退、人口流出等による過疎化が進行しており、人口は高知県内11市で最も少なく、北海道以外で人口の最も少ない市である。また、全域が室戸ユネスコ世界ジオパークである。

平成30年4月26日、廃校を利用した活性化を目的に、室戸市室戸岬にあった旧室戸市立椎名小学校（平成13年閉校、平成17年廃校）を改修し、「むろと廃校水族館」をオープンさせた。

施設では学校の机や椅子、本棚などはそのまま活かしており、展示されている50種類、1,000匹以上の海の生き物は、地元漁師の定置網にかかったり、職員自ら釣ったものが大半となっている。野外プールと校舎内に設置したプールの他、受付、ホール、研修室、授乳室、資料展示室、理科室、図書室、家庭科教室などがあり、小学生に戻った気分で観察できる施設となっている。

イルカや海獣等、来館者寄せの目玉となる飼育動物がいないにもかかわらず、開館から3カ月半経過した8月には初年度目標であった4万人を超えるなど、高知県内でも非常に人気のある水族館となっている。その理由としては、廃校のノスタルジーや他の水族館では看過されがちな種類の魚介類を見ることが出来る点などが挙げられており、開館から1年で約18万人の人が訪れるなど、廃校を利用して観光行政、交流人口の拡大などに大きく貢献している施設である。

6 所 感

(1) 香川県丸亀市

- ・ まる育サポートについて

ここまで手厚い総合的な相談事業は、まだまだ少ないと思った。相談といっても千差万別である。また、支援の内容も経済的支援から心理的支援、医療支援、栄養指導、さまざまである。そうした中で医師や大学教授や臨床心理士などがチームとなってバックアップしてくれる体制ができています。そうした連携の中心にNPO法人がいてくれる。特に発達

障がい児をもつ保護者にとっては、非常にたすかるのではないかと感じた。軽度から重度のさまざまな発達障がい児がいる中、医療を受けながら、アドバイスをもらいながら、また保育や教育の現場の保育士や教員も研修を受けることができる。祖父母と別居する若いお母さん、お父さんが相談できる場所があることが大事だと感じました。

(2) 徳島県吉野川市

・花で彩る吉野川市の未来について

吉野川市は、人口4万1千500人で石巻市と人口規模では約4分の1であるが、人口規模とは無関係で、本市と比較して4倍の行政の躍動感に溢れている。

それは、1つ目は、若手職員にプロジェクトを組ませ、活用していること。

2つ目は、上部団体（財務省）である組織の支援を取り付け活用していること。

3つ目は、国の考え方や方向性を十分に理解し、活用（特に、地域経済分析システム（RESAS））していること。

4つ目は、市長が若手職員のプロジェクトの成果を十分に活用・評価していることある。本市においては、この4つの取組や実践は、これまで上辺のみの行動と思われ、継続性、実践性或いは実効性は何ら現われていない状況である。

その現況は、1つ目は、以前市長就任当時、若手職員の意見を聴く場を設けたようだが、消化型の会合に過ぎず、何の成果も上がっていない。また、全国から派遣されている職員の提言を求めたが、その提言への取組が示されていない。

2つ目は、国の政策に対し、本市が主体性をもって、積極的に呼応したという事が見受けられず、副市長就任等の人事交流などにおいては、信頼関係を深めるどころか、不信感を抱かせる結果となっているようである。

3つ目は、全国自治体が統一的に取り組まなければならない国の戦略である、地域経済分析システム（RESAS）の積極的な活用、マイナンバー制度の推進などにおいては、前向きな姿勢が感じられない。

4つ目は、市長と職員の信頼関係の希薄化、職員のやる気をどう引き出すかなど、市長のリーダー意識の欠如で、閉鎖的な行政組織に陥っており、市長と組織の躍動感が全く感じられない。

この4点を念頭に置くと、吉野川市の市政は新鮮であり活力と躍動感に満ち溢れており、本市がいかに行政の停滞に瀕しているか伺われる。

視察調査した吉野川市の「花で彩る吉野川市の未来」は、「地方創生☆政策コンテスト2018」（内閣府地方創生推進室主催）で、最優秀賞「地方創生担当大臣賞」を受賞したものの、これからどう実践していくかという難題を抱えているのは事実である。それは、食用花の主流の「マリーゴールド」「パンジー」などは、全国どの家庭でも植栽されており、安価で流通されているため、付加価値をつけることは至難の業である。

しかしながら、若手職員の英知とバイタリティを駆使し、市長がトップセールスとい

う、縦の糸、横の糸が十分に機能することにより、立派な織物ができるように、吉野川市の未来へ向けた成果が期待できると感じた。

(3) 高知県室戸市

・廃校利用（むろと廃校水族館）について

旧椎名小学校を活用するきっかけについて伺った。現在、むろと廃校水族館の館長を務める若月様は、NPO 法人日本ウミガメ協議会の役員も兼任しており、平成13年、室戸市の国道55号線にウミガメの産卵に配慮した橋の建設協力がきっかけで、室戸の大敷にウミガメが入ることを知り、大阪から室戸に通いはじめた。平成15年より職員を常駐させ、定置網に入るウミガメの実態調査を本格的に実施した。標本が多く集まり、保管場所の確保が課題となっていたところに室戸市が廃校の活用案を募集した。平成26年、室戸市と協議を開始し、水族館とすることに決定したとのことをお話を伺った。

入館状況について、開館時間は9時から18時まで。10月から3月までは17時まで。休館日なし。視察日前日の令和元年（平成31年）5月15日までに20万7,117名が来館。予想以上に人が来て、口コミやメディア、SNSで情報が広がり、さらに人が行ってみたいくなるように仕掛けてあると感じた。

運営について、徹底した効率化を行っている。LCA（ローコストアクアリウム）への取組として、入館料については団体・障害者・高齢者等の割引はなし。年間パスポート等もなし。シンプルな料金設定とすることで、現場で入館料等の計算をするスタッフの負担を軽減している。

活魚車や特別な車両でしか運搬できないものはコストがかかるので、搬入は軽トラックで扱えるものに限定している。

獣医等にかかるコストを避けるため、飼育管理としては、飼育困難魚種は飼育を避けるか短期展示後に放流し、海獣等は取り扱わない。

解説はパネル等を制作せずに、ラミネート加工した紙のみとしている。展示されている魚種が変わったときパネルを作り直すコストを避けるためと、簡単に移動できることでリピーターを飽きさせない工夫がされている。

イベント等について、昨年8月25日～9月2日にかけて「夜間学校」として閉館時間を22時まで延長した他、12月21日～1月5日には「廃校イルミネーション水族館」、12月31日にはオールナイト開館。1月1日にはベランダを開放し、初日の出鑑賞。4月26日から4月28日には一周年記念で鉛筆を配布したとのことであるが、その鉛筆は地元の文房具屋に注文し、地元への経済効果の波及も考えられている。

広報・宣伝について、オープンは平成30年4月26日（木）。なぜ日曜日にしなかったか尋ねると、土日にはイベントが多く、メディアが分散してしまうため、夕方のニュースで放送されない可能性があるが、平日にオープンさせることによって、やや長い時間多くのメディアに取り扱ってもらえるとの狙いがあった。

プレスリリース、ポスター、チラシは一切なし。発信はツイッターのみにしている。印刷等のコストをカットして、ブログ、フェイスブック、ライン、インスタグラム等、多数あるSNSの中から、ツイッターだけを選択した。トランプ大統領も使用していることから、情報を発信するツールとして最適と判断した。また、「〇〇という番組に〇月〇日〇時から取り上げられます」という情報はあえて発信しないことで、手垢のついていない施設として多くのメディアに取り上げられる工夫をしている。把握しているだけで200近いメディアにとりあげられているとのことであった。

また、施設内は全て写真撮影可能とすることにより、来場者が自身のSNSで拡散し、自由に宣伝してもらおうという作戦が見事に当たっている。

商品・グッズ開発について、水族館業界ではその施設に合う例えばイルカや海獣等のぬいぐるみを製作し、お土産売り場でくじの景品として売るのが定番となっているそうであるが、当該施設ではイルカも海獣もおらず、ぶりのぬいぐるみを使った「ぶりくじ」を8月から登場させ、これまでに24,000本以上売り上げ、高知県内で最も売れているぬいぐるみとなっている。その他、廃校に関連するグッズを制作している。

学校等の利用状況について、遠足・見学・修学旅行等で1年間に42団体、実習生については1年間に約50校受け入れている。学校が活発に廃校を利用するという現象が起きている。等々、アイデアに溢れる試みを次々実現させ、成功させていると感じた。

7 調査による石巻市への政策提言等

(1) 香川県丸亀市

・まる育サポートについて

石巻市においても、子どもをめぐる問題は多様化・複雑化している状況であり、また各家庭においては、核家族の進行と震災後の地域コミュニティの崩壊が深刻な問題となっており、不安やストレスを抱えながら子育てをしている現状である。現在建設している包括支援センターは、妊婦、出産前後、子育ての各ステージに応じ、助産婦や保健師などの専門職が、相談支援や助言・指導、情報提供などで母子をサポート。保育所などの子育て支援機関や医療機関との連携の軸となる役割を担うと思うことから、この丸亀市などの先進地の取組みを参考に、石巻市独自のニーズに合わせた切れ目のない支援を確立してもらえるように、提案していきたいと考える。

(2) 徳島県吉野川市

・花で彩る吉野川市の未来について

庁議や内部組織の会議の活性化について、これまで議会で大いに提言してきたところである。今回の視察において、吉野川市における若手職員によるプロジェクトチームの活動状況は、大いに参考になりました。

このようなことは、どこの自治体でも取り組んでいるところですが、吉野川市ではその

「本気度」が格段違いました。是非、本市での今後、プロジェクトチームや若い職員が自由闊達に市政について、話し合いの場などを組織する際には、次のような配慮を行うよう提言します。

1. メンバー構成には、職員の職域に十分に配慮すること。
(例：日常多くの現場を抱える職員など、会議に出席することにより通常の仕事に大きく支障を来す職員は避けること。)
2. メンバーが気軽に会議に出席できるよう、良好な職場環境の醸成に努めること。
(例：担当の職務も大事だが、出席する会議も同様に市政にとって大事であることを周りの職員に周知する。時には、会議の内容を職場の職員に報告する機会を与える。)
3. 発案を採択する立場にある行政執行部は、会議の結果や結論について、メンバーと親身になって話し合い、具現化にむけて努力すること。
(例：会議の結論や発案がすべて実を結ばなくてもそれまでの経過を評価し、更なる活動を促す。吉野川市では、当該プロジェクトチームから、30を超える提案があり、その1つが、今回視察した「花で彩る吉野川市の未来」であった。30分の1の成功でも、有益であると市長が大変評価したそうであり、そのように急がず育てる思いを持つことが肝要である。)
4. 市役所内にこだわらず、国や県など「公共の福祉向上」を同じ目標とする公務員にも参画してもらえば、委員報酬や日当などの経費の削減ばかりではなく、連携強化に繋がり波及効果が高まる。
(例：県、国の出先機関の職員、自衛隊、警察官、教員等)

(3) 高知県室戸市

・廃校利用（むろと廃校水族館）について

むろと廃校水族館では、近くに鉄道の駅もなく、高速道路も通っていない。何もない場所に人を集め、廃校施設活用の成功モデルに上り詰めた。

平成31年4月26日の高知新聞では「廃校水族館きょう一周年」という見出しで、開館からたちまち人気を呼び、約3カ月で初年度目標の4万人を突破すると一年で17万6,000人を超えたという内容の記事があった。高い集客力は近隣の観光施設にも波及し、室戸ドルフィンセンターの平成31年度来場者数は前年度比4割増し、室戸世界ジオパークセンターも同2割増し、飲食業者も平日が土日のような客入りになったという声もあった、と紹介している。

本市でも、沿岸の廃校を改修して水槽を設置することで、むろと廃校水族館に近い事業ができるかもしれないと感じるが、ある程度専門の知識のある方、そして成功させるアイデアが出せる方が運営すれば実現は可能であると思われる。

手作りの水族館でも、全国には水族館で働きたいと考えている人が一定数いるので、職

員を募集すると選ぶくらいの応募があると教えられた。室戸市の場合は他市から来た女性職員が地元の漁師と結婚するという事例が2組あった。

むろと廃校水族館関連事業費については、総事業費は5億4,966万4,399円。内、計2億3,783万4,000円の補助金を受けている。詳細は国庫の空き家対策総合支援事業補助金、1億9,206万2,000円と高知県観光拠点施設等整備事業費補助金、4,577万2,000円であった。

本市においては、東日本大震災を起因として学校の統廃合が進んでいる状況にあることから、室戸市の取組を参考に、今後も議論を深めていきたい。

8 調査経費 1,264,227円

9 添付書類 別添資料のとおり